



「偉大なる先人の労苦に、心から感謝するとともに、未来の留萌市民のために私たちは、より努力しなければなりません、……2世紀への第一歩にあたって、力強く式辞をのべる原田市長。



式典には、姉妹都市ウラン・ウデ市代表团3人も出席、団長のドルジエビッチ氏から、ウペーエフ市長のメッセージを披露、「百年への祝福と姉妹の絆をより深めよう」としてのべられていました。



2世紀スタートを祝い万歳三唱をする参加者



10月1日 留萌市開基100年記念式典盛大に

市の木はアカシア、花にはツツジが決まりました

力強く2世紀への第一歩を

永年の労苦に感謝をこめて287個人、団体を表彰



2世紀の留萌へ、力強く青年の誓いをのべる 矢倉武志君と佐藤裕子さん



明日の留萌に期待をこめて記念作文を朗読する佐藤君



《100年記念樹に湊神社のカシワを指定》

100年記念樹として、湊神社(大町3)に植えられているカシワの樹が指定されました。このカシワの樹は、樹齢100年で直径34センチ、樹高6メートルの大樹で、明治10年の開基とともにこの地にあり、留萌の移りかわり、港の整備を風雪にたえながら見つめてきた樹といえます。

《2世紀への誓い 見晴公園に建設》

開基100年を祝い、先人の労苦に感謝を捧げるとともに、未来の市発展への祈りをこめて建設されたものです。横4メートルの台座に高さ3.5メートルの碑に原田市長の筆により「輝く未来を創造」と彫られ、碑の表面には、「2世紀への誓い」が彫られています。3本の柱は、市の港湾、産業、商工を表わしています。



明治十年古丹浜の地に戸長役場を設置し、以来ここに留萌市は百年の歳月が流れた。人はかわり、町も大きくかわって来たが、留萌人の気質、町づくりの歩は脈々と力強く進められていきます。そして昭和十一年、国際貿易港の指定を受け正式に開港、昭和二十二年十月には全道十二番目の市として誕生してから三十年、ことし私たち留萌市民は、大きな節目の2世紀を迎えていました。さる十月一日、留萌市開基百年記念式典が市文化センターで盛大に挙行され、改めて留萌市2世紀への第一歩を踏み出したのである。共百年、伸びゆく留萌をテーマスローガンとして、ことし五月から記念事業が行なわれてきましたが、この式典で全プログラムが終わったわけです。式典の当日は、2世紀へのスタートを祝う晴天に恵まれ、記念樹に指定されたカシワの樹の指定式市民の2世紀への決意をこめて建設された記念碑の除幕、記念式典など、約千人の市民が参加された式典には、姉妹都市ウラン・ウ



アカシア



ツツジ

市の木と花が決まりました

留萌市の木と花が正式に決まり開基百年記念式典の席上、選定委員長国崎広隆氏から発表され、市の木にはアカシア、花にはツツジが決まりました。

最後に留萌出身の作曲家、佐藤勝氏作典の、開基百年テーマ音楽「北の序曲」が留萌高校吹奏バンドの手で演奏され、明るく力強い調べが会場いっぱい響きわたりました。留萌2世紀への旅立ちを祝しました。



佐藤勝氏の指揮で「北の序曲」を演奏する留高吹奏バンド



市の木と花の苗木をプレゼントされウラン・ウデ代表团もニコニコ